

ふるさとわがまちづくり

石野町自治区

◆「石野町」のむかし

猿投グリーン道路の枝下インターをさらに東へ進むと、眼下に矢作川の清流とその川沿いに広がった小さな集落が目に入ります。この小さな町が石野町自治区で、昔は石下瀬村ともいい、西枝下に対して東枝下ともいいました。

昔と変わらぬ静かな山里ですが、往時のほうが賑わいを見せたかもしれません。ここは馬背輸送華やかなりし頃の中馬街道、後の飯田街道の主要な道筋にあたり、街道中最も重要な矢作川の渡し場があったところです。

「力石峠を越えて急な坂を下ると、まもなく枝下の渡船場に出る。江戸末期から明治初年にかけてこの中馬街道で最も賑わったところで、馬が力石峠から渡し場まで続いた。もし大雨で川止めとなれば、宿屋まるいち屋をはじめ3、4軒の宿屋は人馬でいっぱいになった」と猿投町誌には記されています。東海道の大井の渡しとはいかないまでも、かつての情景が目につかびます。このまるいち屋は飯田街道ではかなり名の通った宿屋らしく、どんなに遠くで落し物をしてまるいちの名だけで届きました。今は建替えて普通の民家ですが、宿の部屋も随分広がったようです。家の隣りに酒屋があったことや、綿屋の屋号の残る家があることは確かです。

また、渡し船は小船と違って大きな船で人間が30～40人も乗ることのできるものでした。



◆清水鎮平さん

石野町でもう1つ忘れてはならないのは、清水鎮平さんのことです。郷土の偉人として誰からも話しを聞くことができます。

明治38年、当時としては画期的なサイホン式鉄管を導入し、標高122メートルの高台に8町歩（約8ヘクタール）の水田を開いたことです。勘八峡見下ろす高台に開墾を記す石の標柱があり、黄金色の稲穂を一望する時は町民ならずとも胸打つものがあります。



清水鎮平翁碑



石野囃子と山車

鎮平さんの業績はこれだけではありません。鎮平橋に名が残るように力石川と矢作川の合流点に橋を架け東枝下と東広瀬を結ぶ道路を作り、南北の交通路を開いたことです。この川沿いの道路を開く前は人の通るのもやっとだったといえます。時は明治41年、現在の県道島崎豊田線の前身です。



梅の里：収穫の様子

◆石野囃子と梅の里づくり

近年では、自治区の伝統芸能である“石野囃子”の保存に向けて老若男女、自治区をあげて保存活動を進めています。町内外や伊勢神宮奉納演奏にも出かけ、技術の向上・伝承に努めています。また、豊田市のわくわく事業にも参画して“梅の里づくり”を推進中です。

石野町自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：38世帯
：41世帯（昭和52年）
組数：4組
面積：0.763K^m²
回覧：月2回
ちびっ子広場：1箇所
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：25箇所
小学校：東広瀬小学校区
自治区会館：石野町区民会館